

昨年の東日本大震災から1年が経ちました。被災された方々の無念さがひしひしと胸に迫る思いの1年でした。我々透析医療に携わる関係者としても何ができ、何ができなかったか、これから何をすべきなのかを模索する1年でもありました。

平成7年1月17日都市型の阪神淡路大震災を経験したことにより、透析医療における地震災害を中心とした災害対策が講じられてきました。平成16年10月23日中越地震が発生し農山村型地震を経験しました。当時よりわたくしが主宰している城北腎疾患フォーラムの下部組織として「災害時透析医療ネットワーク」を立ち上げました。約1年の準備期間を設けて平成17年10月東京西北部4区（板橋、練馬、豊島、北区）、および川越、所沢、富士見、ふじみ野市、三芳町と和光、朝霞、新座、志木市を合わせた地域で第1回の災害時透析医療ネットワークの訓練を開始いたしました。現在は自主性を担保するため独立した組織になっております。

目的は災害発生時に地域内透析施設が自助、共助出来る連絡網の設立で、年2回の訓練を積み重ねてまいりました。参加施設は平均60%を超えております。あくまでもこの地域内での直接被災を前提

としたネットワークのため、被災状況はネットワーク内の皆様の想定される被害に限定されておりました。しかし東日本大震災に接した時、我々は被災地からの支援の仕方についてマニュアルや報告方法などの取り決めに事前に指定していなかったため、各透析施設の自主的支援を待たなければならませんでした。幸いにして義援金や支援金、医療材料の提供、ボランティア活動（ネットワーク内で50名近く参加）そして透析患者の受け入れ（同じく81名）がなされたことは、日頃の訓練以上に災害に対する心構えが出来てきていたものと深く感謝いたしております。しかしこれで満足するわけにはいきません。今回の体験を通じて今後各施設の自主性を重んじながら、更なるネットワークの充実を図っていきたく考えております。

当朝霞地区4市の透析患者数は約920名（2010年度日本透析医学会統計調査委員会報告より）と推計されます。最近の傾向として透析患者さんの高齢化や原疾患である糖尿病患者さんの増加は、その介護・援助に多くの人力や医療資源などを要します。特に糖尿病は団塊の世代を中心にその患者数が多いため、今後も透析患者が増加することが予想されております。したがって尿に糖やタンパクが出た、糖尿病の疑いがある、糖尿病で治療を要すると診断された方々は、失明率の高い糖尿病性網膜症、下肢壊疽となる慢性動脈閉塞症、心臓病や脳こうそくなどの原因となる動脈硬化の進展や、最終的に糖尿病性腎不全となり透析療法へ陥らないように専門の医師や栄養士の指導の下、自己管理をしつかりと行っていたいただきたいものと考えております。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)
5	③ 朝霞	北朝霞・朝霞台えきまえ エスエスこどもクリニック	小	476-3002	志木	宇野眼科医院	眼	472-6202
	④ 新座	守屋医院	外・内・皮泌・消内 ・肛・放	479-8855	和光	大森耳鼻咽喉科医院	耳	467-3314
	⑤ 新座	大塚産婦人科医院	産婦・小	479-7802	志木	西川医院	内・消内・外	471-0074
	6 和光	和光内科外科診療所	内・外・皮・小・リハ	466-2235	新座	飛田耳鼻咽喉科	耳	479-4062
	13 新座	新座西山内科眼科 クリニック	循内・内・眼・小	202-1112	和光	村山皮膚科クリニック	皮・アレ	464-5333
	20 志木	志木ホームクリニック	内・小	487-1255	朝霞	まつおか眼科クリニック	眼	450-2030
	27 志木	はんだ内科クリニック	内・消内・循内・小	486-2327	朝霞	稲生整形外科	整外・リハ・リウ	462-2422



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。